令和6年8月5日

長崎市医師会看護専門学校
学校長　真崎　宏則　様

学校関係者評価委員会
委員長　中村　久美子

学校関係者評価委員会報告書

令和6年度（令和5年度実施分）学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員
　日野出　悦子（長崎県看護協会　会長）
　坂井　和子（済生会長崎病院　看護部長）
　坂田　幸利（長崎市医師会看護専門学校同窓会　会長（日浦病院　看護部長））
　中村久美子（元活水女子大学健康生活学部子ども学科　特別専任准教授）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況
　第1回委員会 令和6年7月16日（会場：長崎市医師会館3階　自己学習室）

3. 学校関係者評価委員会報告
(1) 令和5年度自己点検自己評価結果について
　学校評価委員長より、以下のことについて説明された。
　① 9つのカテゴリーの自己点検自己評価項目について、令和4年度と令和5年度の学校全体及び各科の平均値をレーダーチャートで示された。
　② 全体については、自己評価が3未満となっている項目が説明された。【Ⅶ：卒業・就職・進学】及び【Ⅷ：地域社会】
　③ 各科の自己点検自己評価結果については、それぞれ結果の要因分析を行い、それを踏まえた改善策や取り組みについての計画が説明された。

(2) 令和 6 年度学校重点目標及び項目について
　① 重点目標については、学校運営会議において協議、決定のうえ、市医師会理事会の承認を受けている。

② 重点目標は、基本3年間の中期計画として考えているためほとんど変わっていないことや、前年度の内容から一部変更したものについて変更理由などの説明がなされた。

③ 重点目標について、特に力を入れているものについて説明がされた。

- 「ICTを活用した学習支援体制の整備」について、電子教科書の導入を全学科順次始めており、また、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めていくため特別委員会を設置し2年間の計画策定を行っている。
- 「教員の教育実践能力を強化し、教育の質の向上」について、キャリアラダーを活用した目標づくりや時間外勤務の改善に取り組んでいる。
- 「円滑な学校運営の推進」について、次長職を新たに配置し、外部との調整や内部統括などの職務を分掌した。また、第1看護学科においても入学者が定員に満たない状況から、学生確保の取組みとして、指定校推薦や入学試験日程などの見直しや、様々なガイダンスへの積極的参加、保護者の学校見学の受入れなどに取り組んでいる。
- 「地域への貢献」について、学生のキャリア支援を行いながら、合わせて県内の就業促進に取り組んでいる。

④「学生の授業過程評価」、「教員の研修実績、研究活動等」、「授業参観等の取組み」、「臨地実習の充実を目指した実習施設との連携への取組み」について説明がされた。

4. 質疑応答

「令和5年度自己点検自己評価結果」や「令和6年度学校重点目標及び項目」における質疑応答において次のようなものがあった。

(1) 「教員の教育・研究活動の充実」について

教員が忙しいということについて、教員数については指定規則の人員ではなく運営会議で各学科の必要配置人員を決めている。人員確保できていない部分については短時間勤務のサポート教員を配置し対応しているが、学生の個別指導など色々な部分が煩雑になってきている。このため、時間外勤務について毎月科長会において、勤務実績を把握し、縮減に取り組んでいる。また、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めていくこととしている。

サポート教員について、採用選考の考え方や業務内容について説明がされた。

(2) 「地域社会への貢献とニーズの把握」について

地域資源の活用に関する教員の認識の違いということについて、教員にも学外を見てもらいたいということで色々な役割を持たせているが、地域資源の情報を積極的に取りに行くところが不足しており、管理者が情報を伝え支援していく必要があ

ると思っている。

(3) 個々の教員の目標管理体制について

キャリアラダーの目標設定や進捗状況について、科長が面談を行い研修等の状況を導入時期、中間、最終評価時期に確認し、副学校長は年度途中で面談により本人の課題の聞き取りや学校としての支援などを説明している。

5. 評価委員との意見交換

(1) 実習施設と学校のコミュニケーションについて、会議だけではなく実習施設現地での学生も含めたコミュニケーションも必要であり、実習指導者と教員のコミュニケーションが良ければ学生も嬉しいのでそのような現場になればいいと思う。

(2) 看護師養成のため、学校では、学生確保に色々な取組みを行っており、看護職の指導・育成に多くの時間を使っていることがわかり、実習施設としても実習を大事に捉えて実施している。そのうえで、病院として卒業し入職してくる看護師を大事に育てていかなければと改めて思った。

(3) 看護職の認知促進に関して、中学生以上を対象とする地域や看護協会の催しなどのさらなる活用についての提案があった。

以上、報告、質疑、協議の結果、

自己点検自己評価内容を踏まえて今年度の目標設定、改善策を設定され、取り組みが実施されていることを委員全員が認識し、了承した。